

## 第4回 革新的医薬品・医療機器創出のための官民対話

2015年8月24日

# 創薬日本のグローバル展開における 人材育成・発掘および人脈活用に果 たすアカデミア組織の使命



全国医学部長病院長会議会長

大阪市立大学医学部長・大学院医学研究科長

荒川哲男

# アカデミア組織として貢献できることおよび創薬の展望

## 1. 国際展開

世界トップレベルにある日本の医療を「売り」とし、医療技術と医薬品・医療機器をセットで輸出

## 2. 人材育成・人材発掘

- ①海外、とくにアジア、アセアンの優秀な医療スタッフの教育・研修
- ②医療、工学、経営学、社会科学などの総合的マネジメント力を持つ人材育成
- ③すでに活動しているが、表に現れていない貴重な人材の発掘

## 3. 広域連合による地方創生のグローバル化

関西で関西公立医科大学・医学部連合を結成。スケールメリットを活かし、1, 2を展開するモデル・プロジェクトになりうる。

## 4. 新薬開発(今考えられている再生、バイオ以外)

- ①既存薬剤のrepositioning促進
- ②海外のベンチャーからのシーズを日本企業が臨床試験
- ③感染症とくにNTDに対する創薬(国際貢献)

革新的医薬品・医療機器創出のための官民対話

『創薬立国 日本』の実現に向けて

日本製薬団体連合会 会長 内藤 晴夫

日本製薬工業協会 会長 手代木 功

米国研究製薬工業協会

在日執行委員会 委員長 アルフォンゾ・G・ズルエッタ

欧州製薬団体連合会 会長 フィリップ・フォシェ

4. アジア地域における革新的医薬品開発のための  
アジア諸国連携の強化・推進

日本がリーダーシップを発揮すべき事項

- 国民皆保険制度、医療制度の導出
- 審査体制の整備と人材の育成
- 優れた医薬品・医療技術の提供



- **官民が連携し、政治体制・経済・文化の多様なアジア圏で日本がリーダーシップを発揮し貢献**
- **アジアとともに発展し、その成果を国内へ還元する**

平成26年度(2014年)

# わが国の大学医学部・医科大学 白書 2014



一般社団法人  
全国医学部長病院長会議

## 大学医学部・医科大学における国際交流に関する実績調査

(平成24~26年度実績)

派遣(全国合計)

※派遣期間は、大学ごとの「平均」より算出

(全国合計)	年度	校数	派遣件数		派遣人数			派遣期間(月)		
			合計	1校平均	合計	1校平均	1件平均	平均	最多	最少
①学部生	H24	74	541	7.3	1,193	16.1	2.2	1.22	12.00	0.13
	H25	72	620	8.6	1,259	17.5	2.0	1.05	12.00	0.03
	H26	69	544	7.9	1,167	16.9	2.1	1.20	12.00	0.13
③大学院生	H24	49	416	8.5	529	10.8	1.3	5.76	40.00	0.03
	H25	45	421	9.4	556	12.4	1.3	4.54	24.00	0.07
	H26	46	353	7.7	427	9.3	1.2	3.57	24.00	0.07
⑤大学スタッフ (医学部医学科)	H24	75	7,982	106.4	9,623	128.3	1.2	3.25	270.00	0.03
	H25	73	8,500	116.4	10,172	139.3	1.2	3.13	120.00	0.01
	H26	73	6,476	88.7	7,680	105.2	1.2	2.14	25.00	0.03
⑦大学スタッフ (附属病院)	H24	52	2,333	44.9	2,938	56.5	1.3	2.40	36.00	0.03
	H25	52	2,437	46.9	3,158	60.7	1.3	2.25	36.00	0.03
	H26	50	2,113	42.3	2,717	54.3	1.3	2.18	24.00	0.03

派遣人数  
0 5,000 10,000  
(人)

受入れ(全国合計)

(全国合計)	年度	校数	受入件数		受入人数			受入期間(月)		
			合計	1校平均	合計	1校平均	1件平均	平均	最多	最少
①学部生	H24	61	301	4.9	601	9.9	2.0	2.15	48.00	0.10
	H25	66	387	5.9	694	10.5	1.8	1.48	26.00	0.07
	H26	65	346	5.3	643	9.9	1.9	1.33	11.00	0.13
③大学院生	H24	46	317	6.9	407	8.8	1.3	24.47	84.00	0.03
	H25	44	203	4.6	258	5.9	1.3	22.99	72.00	0.10
	H26	41	208	5.1	279	6.8	1.3	19.12	54.00	0.07
⑤大学スタッフ (医学部医学科)	H24	66	807	12.2	1,019	15.4	1.3	5.03	164.00	0.03
	H25	65	819	12.6	1,046	16.1	1.3	3.51	25.00	0.03
	H26	66	716	10.8	1,000	15.2	1.4	3.59	36.00	0.03
⑦大学スタッフ (附属病院)	H24	32	194	6.1	243	7.6	1.3	4.05	48.00	0.03
	H25	33	227	6.9	297	9.0	1.3	2.39	18.00	0.03
	H26	36	197	5.5	280	7.8	1.4	3.31	36.00	0.03

受入人数  
0 5,000 10,000  
(人)

※回答数 大 学:全80校(国立:43校、公立:8校、私立:29校)  
附属病院:全80病院(うち、大学に含む:9病院、実績なし:11病院)

※地域区分は、国連の「CLASSIFICATION OF COUNTRIES BY MAJOR AREA」による。

※台湾については、回答から判断しえるものについては、「東アジア」地域に分類した。

※国名欄に複数国を記述しているものについては、最初に記述しているものを優先した。

※必須回答欄に未記載があるものは、集計より除外した。

※派遣期間の「平均」は、各校の1件あたりの平均を分母とした。

※「実施時期」については、全て平成24年4月以降とし、それ以前の記述のものは、当該期日までの期間を月単位で除した。よって、当該期日に満たないものは、集計より除外した。

※「受入期間」については、「月単位(30日)」に変更し集計した。

※「職種・役職」の記載の関係で、複数記述している同一企画と見受けられるものもあるが、判断できないためそのまま集計した。





# 関西公立医科大学・医学部連合 (KNOW)

京都府立医科大学、奈良県立医科大学、大阪市立大学医学部、和歌山県立医科大学



共通のミッション



全国医学部長病院長会議会長 全国医学部長病院長会議前副会長  
現顧問

## ミッション

関西4医科大学・医学部が、**地域社会の発展と人類の福祉**に寄与することを目的として、**教育・学術研究、地域貢献、国際貢献**等の分野で相互に連携・協力する協定を締結した。(2014年9月1日)



## 関西医大連合、保健省と包括協定＝人材育成など医療協力

【ハノイ時事】関西公立医科大学・医学部連合と医療国際化推進機構は12日、ベトナムのハノイで、越保健省と包括協力協定を結んだ。連合、機構とも外国政府との協定は初めてで、学术交流や産官学の連携を強化する。

医大連合は京都府、奈良県、和歌山県と大阪市の4医科大・医学部で組織。国際化機構は学術・研究機関、病院、産業界、公的部門が連携して国際交流を進めるために創立された。包括協定により、(1)人材育成(2)感染症予防(3)先端医療技術(4)国民健康保険ーなどの分野で協議するほか、医療ビジネス拡充にも取り組む。

協定に署名した大阪市立大学の荒川哲男医学部長は「ベトナムの医療ニーズをしっかりと把握し、4大学が連携して国際貢献を強化したい」と述べた。



12日、ベトナムの首都ハノイで行われた関西公立医科大学・医学部連合および医療国際化推進機構と越保健省の包括協力協定署名式

関西の医科大 ベトナム政府と協定 NHKニュース

NHK NEWSWEB

2015年(平成27年)2月13日[金曜日]

### 関西の医科大 ベトナム政府と協定 2月12日 21時30分

関西地方にある医科大学などが、医療水準の向上を目指すベトナムに、医療従事者の育成や、医療システムの導入で協力することになり、12日首都ハノイでベトナム政府と協定を結びました。

ベトナム政府と協定を結んだのは、大阪や京都など関西地方の4つの公立医科大学などでつくる「関西公立医科大学・医学部連合」と日本の医療産業の国際展開に取り組む「医療国際化推進機構」です。

調印式は、12日首都ハノイのベトナム保健省で行われ、レ・クアン・クオン副大臣と大阪市立大学の荒川哲男医学部長らが出席しました。

協定に基づいて、日本側では、今後、ベトナムから医師や看護師などをそれぞれの大学の関連病院に招き、日本の先進的な医療技術を学ぶ機会を設けるなど人材の育成を進め、ベトナムの医療水準の向上に貢献したいとしています。

また、日本の医療機器や医薬品、さらに、病院経営のノウハウや保険制度などもベトナムの医療関係者に紹介し、日本式の医療システムの導入も積極的に働きかけたい考えです。

医療の国際展開を巡っては、日本政府が成長戦略の1つに位置づけ新興国を中心に取り組みを進めていて、調印式に出席した荒川医学部長は「日本とベトナム双方にとってよい方向に進むことを期待したいです」と話していました。



# 関西公立医科大学・医学部連合国際学術交流協定締結校一覧

大阪市立大学医学部との協定大学	国・地域	締結年
慶熙大学医学部	韓国	1986
全南国立大学医学部	韓国	1986
リヨン第1大学医学部	フランス	1994
ロンドン大学 ライフサイエンス学部 バイオメディカルサイエンス学部	イギリス	2006
トーマス・ジェファーソン大学医学部	アメリカ合衆国	2007
台北医科大学医学部	台湾	2010
国立台湾大学	台湾	2010
ハノイ医科大学	ベトナム	2010
ガジャマダ大学医学部	インドネシア	2012
国立アイルランガ大学医学部	インドネシア	2013
マヒドール大学医学部 シリラート病院	タイ	2013
チュラロンコン大学医学部	タイ	2013
タマサート大学医学部	タイ	2013
ポリテクニカ デル マルシェ大学	イタリア	2013
タマサート大学医学部	タイ	2014
チャンディーガル卒後医学教育研究施設	インド	2014
ガルフ医科大学	アラブ首長国連邦	2014
ホーチミン医科薬科大学	ベトナム	2014
全インド医科大学	インド	2014
国立精神衛生神経科学研究所	インド	2014
ソウル国立大学医学部	韓国	2014
大連大学医学部	中国	2014
メルボルン大学校医学部	オーストラリア	2015

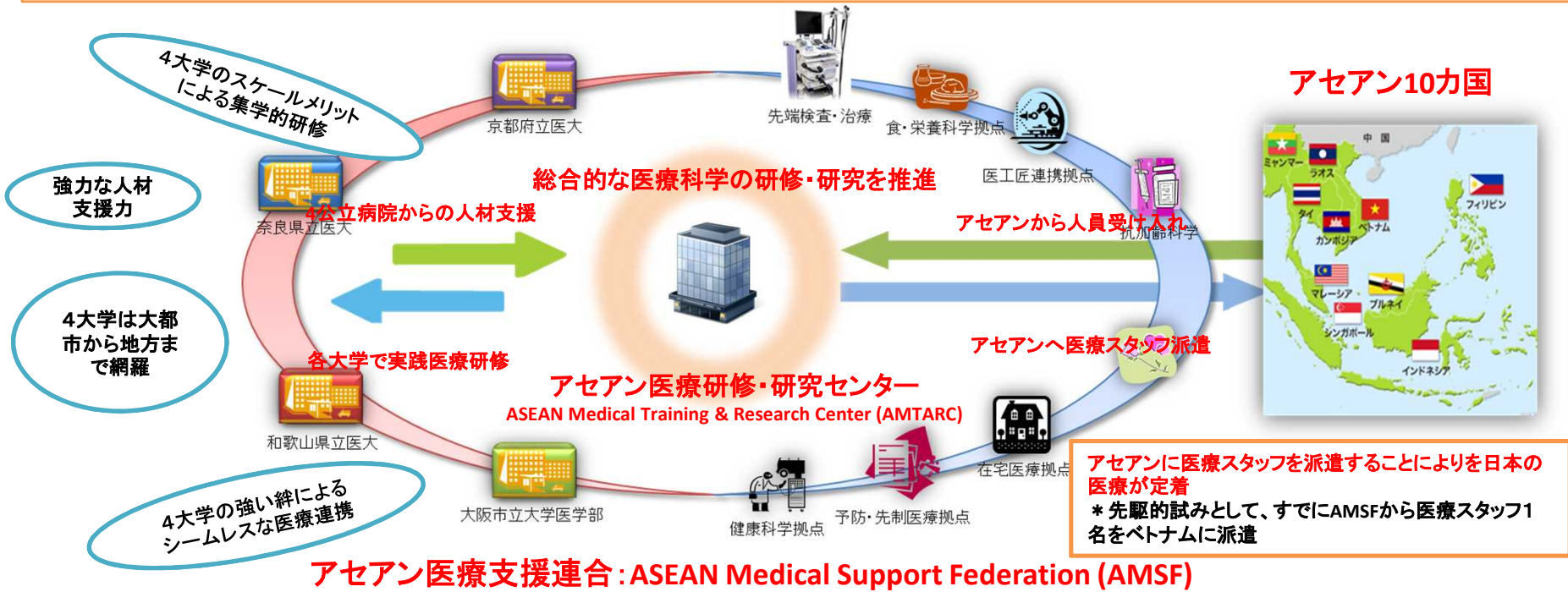
京都府立医科大学との協定大学	国・地域	締結年
オクラホマ大学	アメリカ合衆国	1986
国立モンゴル医科大学	モンゴル	2007
ヴァンアンデル研究所	アメリカ合衆国	2007
カレル大学	チェコ	2007
マサリーク大学	チェコ	2007
パルドビツェ大学	チェコ	2007
エアランゲン・ニュルンベルク大学	ドイツ	2008
カーディフ大学	イギリス	2009
ジュネーブ大学	スイス	2009
ソウル国立大学医学部	韓国	2009
ハリム大学	韓国	2010
レーゲンスブルク大学	ドイツ	2010
ソウル国立大学附属病院	韓国	2013

和歌山県立医科大学との協定大学	国・地域	締結年
山東大学	中国	1986
上海交通大学医学院	中国	2006
マヒドール大学	タイ	2006
コンケン大学医学部	タイ	2006
香港中文大学	中国	2007
ソウル国立大学医学部	中国	2008
ブラパ大学	タイ	2013
チャールズ大学医学部	チェコ	2013
カレル大学	チェコ	2013
ミャンマー連邦共和国 保健省	ミャンマー	2014

奈良県立医科大学との協定大学	国・地域	締結年
チェンマイ大学	中国	1986

アジア (
  ASEAN)
  中東
  オセアニア

# アセアン医療研修・研究センター(ASEAN Medical Training & Research Center)構想



## ■ASEANの医療水準向上のためのアクション

### ● 医療技術習得後にGraduation certificateを発行

ASEANからの医師・看護師など医療職に対し先端医療機器を取り扱う技術を指導。4公立大学病院にて実習を行いGraduation certificateを発行。一方で、先端医療機器と日本の指導医療スタッフをセットにしてASEAN諸国へ輸出。

### ● 世界最高水準の安全で良質な医療を海外へ発信

ASEANからの医師・看護師など医療職と共に実践することによって世界最高水準の安全で良質な日本の医療マネジメントについて指導し、海外へ発信。その他、褥瘡、感染、NST、クリニカルパスなど日本の超高齢化時代を背景とした医療マネジメントを指導することによって世界を牽引。日本の世界最高水準の安全で良質な医療スキームをアセアンへ輸出。4公立大学病院にてスキームなどについての実習を行いGraduation certificateを発行。

## ■ASEANの健康増進及び病気の予防の推進のためのアクション

### ● 高齢化社会に対応した健康科学・先制医療統括拠点をアセアン医療研修・研究センター内に併設

ASEANからの医師・看護師など医療職に対し健康科学、先制医療の指導を行い、大阪市健康科学イノベーションセンターやハルカス先端予防医療センターなどにて実習を行う。先制医療については、システム化を行いパッケージ化してASEANへ輸出。

### ● 高齢化社会を見据えてASEAN諸国と協議し各国主要都市に健康科学・先制医療センターを設立

日本の先制医療システムを多国に輸出することによりASEAN一体型のメガデータバンクが実現。データの解析によって、各国の状況と多国間での比較が可能となる。さらに各国に応じたテーラーメイドな医療を実現。日本を加えたアセアン7億人ベースの解析により新たな研究成果の創出も期待できる。